

# 19日 日曜

エステル

7:1 王とハマンはやって来て、王妃エステルと酒をくみかわした。

7:2 この酒宴の二日目にもまた、王はエステルに尋ねた。「あなたは何を願っているのか。王妃エステル。それを授けてやろう。何を望んでいるのか。王国の半分でも、それをかなえてやろう。」

7:3 王妃エステルは答えて言った。「もしも王さまのお許しが得られ、王さまがよろしければ、私の願いを聞き入れて、私にいのちを与える、私の望みを聞き入れて、私の民族にもいのちを与えてください。」

7:4 私も私の民族も、売られて、根絶やしにされ、殺害され、滅ぼされることになります。私たちが男女の奴隸として売られるだけなら、私は黙っていたでしょうに。事実、その迫害者は王の損失を償うことができないのです。」

7:5 アハシュエロス王は王妃エステルに尋ねて言った。「そんなことをあえてしようとも思っていない者は、いったいだれか。どこにいるのか。」

7:6 エステルは答えた。「その迫害する者、その敵は、この悪いハマンです。」ハマンは王と王妃の前で震え上がった。

7:7 王は憤って酒宴の席を立って、宮殿の園に出て行った。ハマンは王妃エステルにいのち請いをしようとして、居残った。王が彼にわざわいを下す決心をしたのがわかったからである。

7:8 王が宮殿の園から酒宴の広間に戻って来ると、エステルのいた長いすの上にハマンがひれ伏していたので、王は言った。「私の前



Bible Reference  
聖書の記述

で、この家の中で、王妃に乱暴しようとするのか。」このことばが王の口から出るやいなや、ハマンの顔はおおわれた。

7:9 そのとき、王の前にいた宦官のひとりハルボナが言った。「ちょうど、王に良い知らせを告げたモルデカイのために、ハマンが用意した高さ五十キュビトの柱がハマンの家に立っています。」すると王は命じた。「彼をそれにかけよ。」

7:10 こうしてハマンは、モルデカイのために準備しておいた柱にかけられた。それで王の憤りはおさまった。

エステルには思慮深い考えがあり、王の関心と慈しみを引き出すために、王と何度も会いながらもなかなかその本題は明かしませんでした。その間にハマンはモルデカイを殺す計画を立てていたのですから、一歩遅くなればエステルの引き伸ばしは大失敗になるところでした。この一連の出来事を勝利に導かれたのは、神以外にはありません。

結局誰も先のことを見越して行動できる者はなく、ただ主のみ旨に叶う者が、主からの勝利をいただけるのです。それは主ご自身が勝利者であられるからで、主のみこころにつく者が勝利にあずかれるのです。

またエステルは、神の時を知り、勇気を出して王に同胞への助けを求めました。ハマンがモルデカイを殺そうとしていることは知りませんでしたが、主のみこころを行ったときに、自分が知らない問題にも解決が与えられたのです。

ハマンは人を陥れようとした罠に自分がかかりました。箴言に「(26:27) 穴を掘る者は、自分がその穴に陥り、石をころがす者は、自分の上にそれをころがす。」とあるとおりです。

小さなものであっても、誰かを害するような穴や石を用意するようなことをせず、主のために自

分を犠牲にする勇気と決心に生きることを、喜びとしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

